

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

第13回 ワーキンググループ議事要旨及び評価結果等

目 次

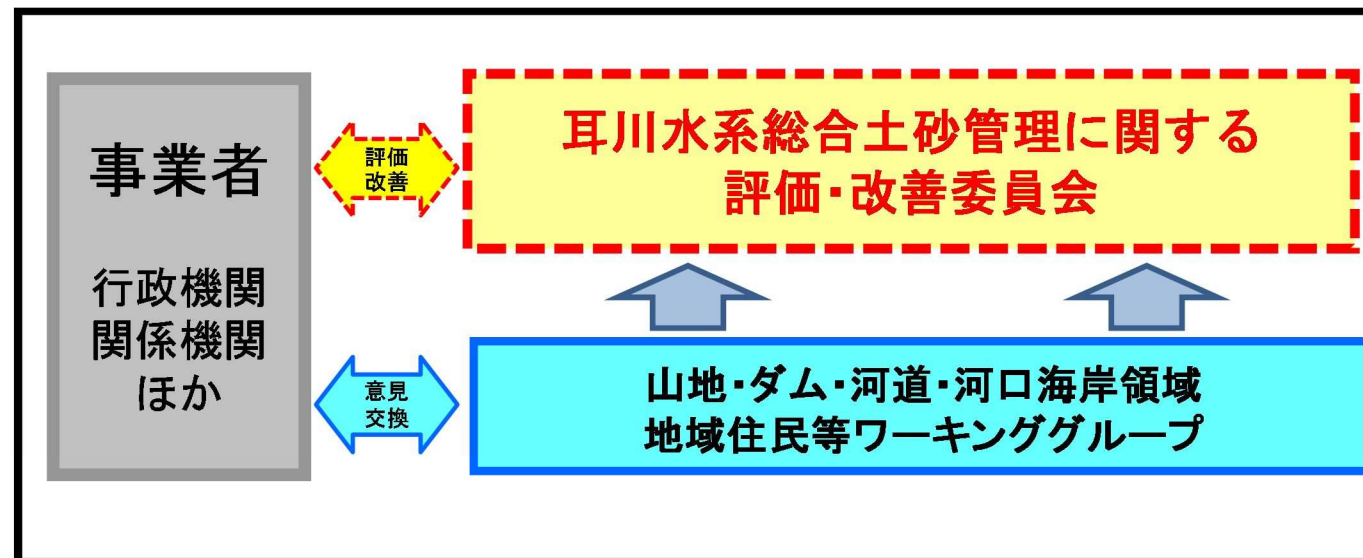
ワーキンググループの概要	1
--------------------	---

<第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 議事要旨>

1. 議事次第	2
2. 議事要旨	4
3. WGでの意見を踏まえた「問題・課題評価シート」及び「耳川通信簿」	9
4. 開催状況	15

ワーキンググループ アンケート結果	16
-------------------------	----

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 ワーキンググループの概要



◆ワーキンググループの目的

- ・モニタリングの結果や、各種事業の取り組み状況について、流域の地域住民や民間団体の代表者と意見交換を行い、事業者側の調査だけでは把握できない、より生活に密着した環境や景観などの変化について意見をいただくと共に、総合土砂管理上の問題・課題に対し、地域住民の視点で評価していただくもの。
- ・いただいた意見等は、評価・改善委員会において参考とする。

ワーキングの進め方



耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

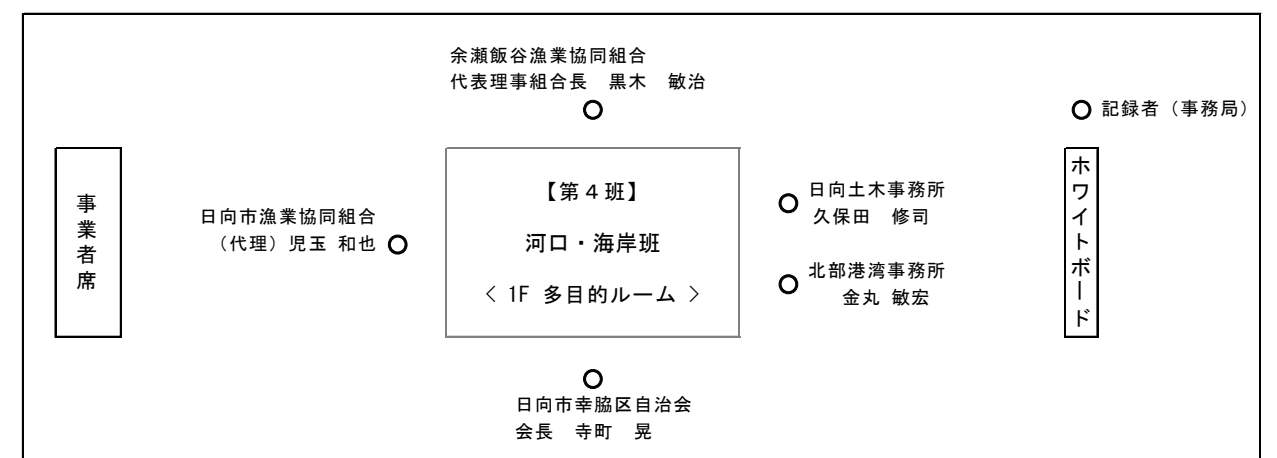
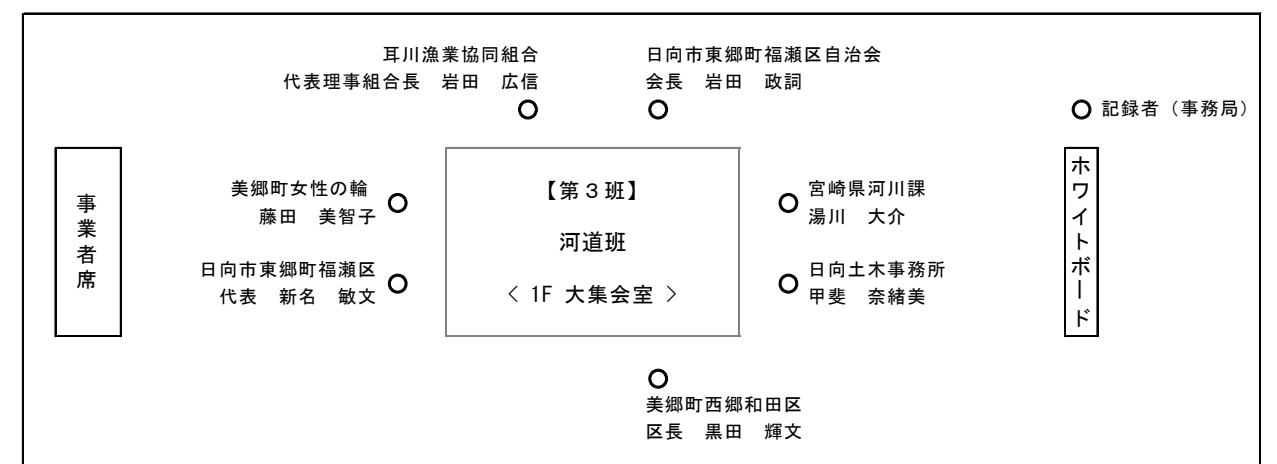
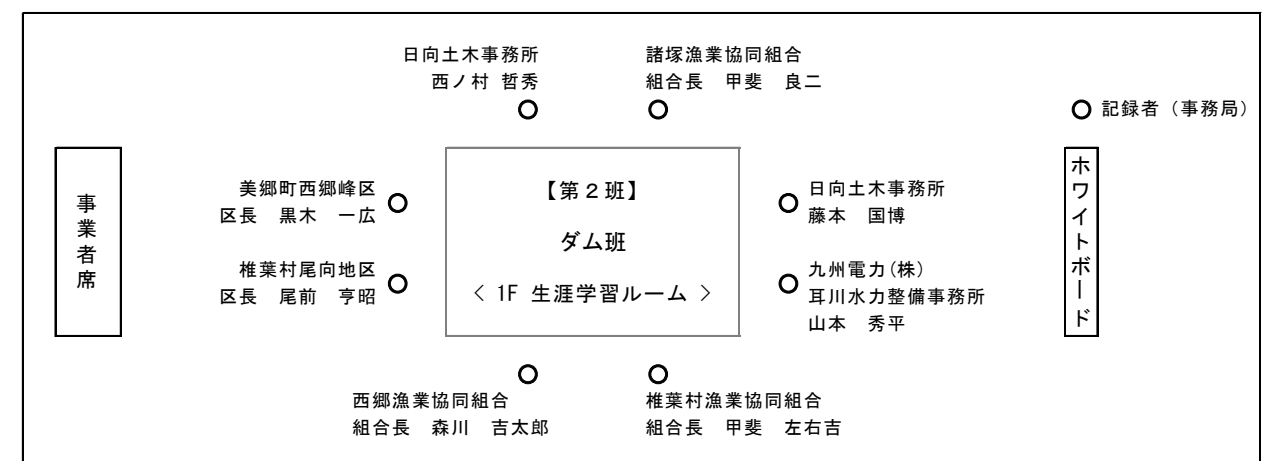
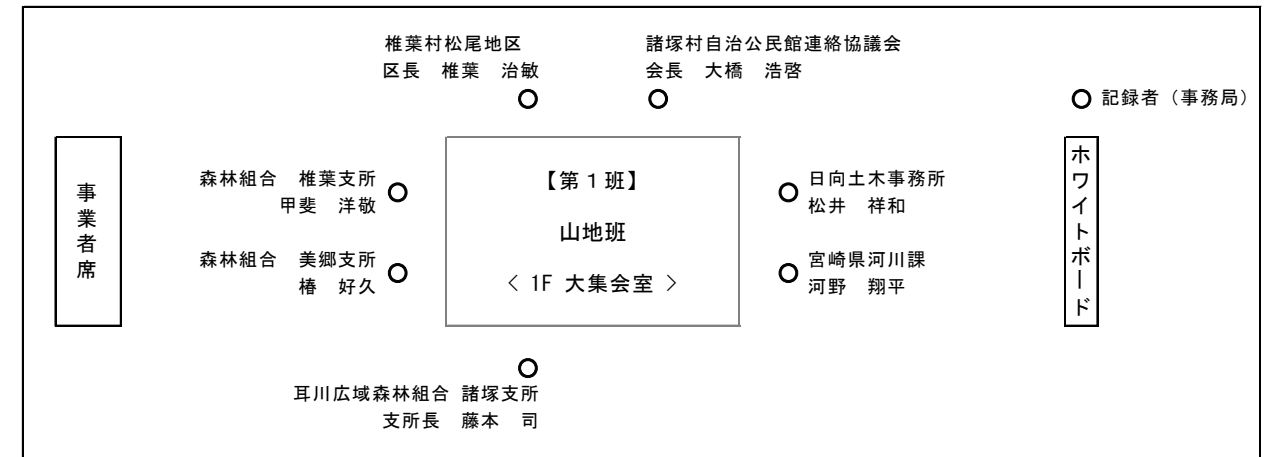
第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ

日時：令和7年3月18日(火)
13:30～17:00
場所：美郷町西郷ニューホープセンター

議 事 次 第

1. 開 会
2. 出席者紹介
3. 耳川水系総合土砂管理計画について
4. 第13回評価・改善委員会（令和6年7月）での指摘について
5. 今年度の耳川流域の概況・ダム通砂運用の結果報告
6. 耳川水系における取組状況の説明
7. グループ討議
(耳川の取組み状況の説明及び評価に対する意見のとりまとめ)
8. 全体発表
9. アンケート
10. 閉 会

配置図



第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 出席者名簿

＜委員会＞					
	区 分	所 属	役職名	氏 名	備考
1	関係機関	日向市漁業協同組合	組合長 (代理)	児玉 和也	
2	関係機関	美幸内水面漁業協同組合	代表理事組合長	黒木 隆太	欠席
3	関係機関	耳川漁業協同組合	代表理事組合長	岩田 広信	
4	関係機関	余瀬飯谷漁業協同組合	代表理事組合長	黒木 敏治	
5	関係機関	西郷漁業協同組合	代表理事組合長	森川 吉太郎	
6	関係機関	諸塚漁業協同組合	組合長	甲斐 良二	
7	関係機関	椎葉村漁業協同組合	組合長	甲斐 左右吉	
8	関係機関	耳川広域森林組合	代表理事組合長	平野 浩二	欠席
9	住民代表	日向市東郷町福瀬区自治会	会長	岩田 政詞	
10	住民代表	日向市東郷町福瀬区	代表	新名 敏文	
11	住民代表	日向市幸脇区自治会	会長	寺町 晃	
12	住民代表	美郷町西郷 峰区	区長	黒木 一広	
13	住民代表	美郷町西郷 和田区	区長	黒田 輝文	
14	住民代表	美郷町西郷 坂本区	区長	山澤 敏徳	欠席
15	住民代表	美郷町西郷 下区	区長	本吉 重喜	欠席
16	住民代表	美郷町西郷 花水流区	区長	道口 光一	欠席
17	住民代表	美郷町女性の輪	代表	藤田 美智子	
18	住民代表	諸塚村家代（林家）	代表	西田 正	欠席
19	住民代表	諸塚村自治公民館連絡協議会	会長	大橋 浩啓	
20	住民代表	椎葉村 尾向地区	区長	尾前 亨昭	
21	住民代表	椎葉村 松尾地区	区長	椎葉 治敏	
22	関係機関	耳川広域森林組合 椎葉支所	支所長	甲斐 洋敏	
23	関係機関	耳川広域森林組合 諸塚支所	支所長	藤本 司	
24	関係機関	耳川広域森林組合 美郷支所	支所長	椿 好久	

領域			
【第1班】 山地班	【第2班】 ダム班	【第3班】 河道班	【第4班】 河口・海岸班
			○
			○
		○	
			○
	○		
	○		
○			
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
○			
○			
	○		
○			
○			
○			

＜事業者＞					
	区 分	所 属	役職名	氏 名	備考
1	関係行政機関	宮崎北部森林管理署	総括治山技術官	石本 敏隆	
2	関係行政機関	宮崎北部森林管理署	総括森林整備官	本田 末広	
3	関係行政機関	宮崎北部森林管理署 上椎葉森林事務所	首席森林官	岩上 勇	欠席
4	関係行政機関	宮崎北部森林管理署 東郷森林事務所	森林官事務取扱	山川 祐一	
5	関係機関	九州電力(株) 耳川水力整備事務所 副所長兼ダム計画・工事グループ	副所長	小柳 晋太郎	
6	関係機関	九州電力(株) 宮崎支店 技術部	部 長	大久保 秀男	欠席
7	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課	課 長	藤本 国博	
8	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 河川担当	リーダー	久保田 修司	
9	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 河川担当	主査	甲斐 奈緒美	
10	関係行政機関	日向土木事務所 道路課 道路保全担当	リーダー	甲斐 賢哉	欠席
11	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 砂防担当	リーダー	松井 祥和	
12	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 ダム担当	リーダー	西ノ村 哲秀	
13	関係行政機関	日向土木事務所 諸塚駐在所	所 長	福元 博	
14	関係行政機関	日向土木事務所 椎葉駐在所	所 長	前田 勉	欠席
15	関係行政機関	北部港湾事務所 工務課 建設担当	リーダー	金丸 敏宏	
16	関係行政機関	宮崎県 企業局 北部管理事務所	副所長	轟木 政広	
17	関係行政機関	東臼杵農林振興局 林務課 林政担当	リーダー	永野 学	
18	関係行政機関	東臼杵農林振興局 森林土木課 治山担当	リーダー	竹本 俊夫	
19	関係行政機関	東臼杵農林振興局 森林土木課 森林路網担当	リーダー	山本 進也	
20	関係行政機関	宮崎県 農政水産部 水産政策課 漁村振興担当	リーダー	岡崎 敬	欠席
21	関係行政機関	宮崎県 農政水産部 漁業管理課 資源管理担当	リーダー	長野 昌子	欠席
22	関係行政機関	東臼杵農林振興局 諸塚駐在所	所 長	上村 政弘	
23	関係行政機関	東臼杵農林振興局 椎葉駐在所	所 長	河野 淳二	
24	関係行政機関	日向市 建設部 建設課 土木建設係	係 長	牧野 敏朗	
25	関係行政機関	日向市 市民環境部 環境政策課 環境公害係	課長補佐 兼係長(代理)	児玉 みらい	
26	関係行政機関	日向市 農林水産部 林業水産課 水産振興係	係 長	矢野 隆博	
27	関係行政機関	日向市 農林水産部 農業畜産課 農村整備係	課長補佐兼係長	東田 誠	欠席
28	関係行政機関	日向市 上下水道局 水道課浄水係	課長補佐兼係長	黒木 郁志	
29	関係行政機関	日向市 農林水産部 林業水産課 林業振興係	課長補佐 兼係長	矢野 貴之	
30	関係行政機関	日向市 総務部 防災推進課 防災管理係	係長 (代理)	児玉 知大	
31	関係行政機関	椎葉村 建設課 道路管理グループ	課長補佐兼 グループ長	椎葉 貴幸	
32	関係行政機関	椎葉村 農林振興課 林業振興グループ	課長補佐 兼グループ長	中瀬 育生	
33	関係行政機関	諸塚村 産業戦略課	課長補佐	藤本 菜美	
34	関係行政機関	諸塚村 建設環境課	課長補佐	小川 義宣	欠席
35	関係行政機関	美郷町 農林振興課 林政担当	主任主事	瓶田 恭司	欠席
36	関係行政機関	美郷町 建設課 管理担当	主事	海野 紗香	欠席

＜事務局＞					
	区 分	所 属	役職名	氏 名	備考
1	関係行政機関	宮崎県 県土整備部 河川課 計画調査担当	主幹	湯川 大介	
2	関係行政機関	宮崎県 県土整備部 河川課 計画調査担当	主任技師	河野 翔平	

領域			
【第1班】 山地班	【第2班】 ダム班	【第3班】 河道班	【第4班】 河口・海岸班
		○	
○			

2. 議事要旨

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【山地班】 議事要旨				
項 目		委員からの意見内容		事務局の回答内容
(1) 崩壊地からの土砂流出状況	①	崩壊地面積の算出方法がこれで良いか疑問に感じている。		① 見直しに向けて検討中である。
	②	主伐面積は実態と合っているか。 →伐採届の面積から算出している。		② 今後の評価の参考にさせて頂く。
	③	椎葉では道路事情により搬出等が困難で伐採は減少している。 美郷では伐採は増加している。人材不足等により再生林が追い付かない状況である。		③ 今後の評価の参考にさせて頂く。
	④	ダム堆砂量が良い評価になっている。ダム下流側は良くなっているも、上流部に位置する上椎葉ダムでは悪くなっている（ダム堆砂量が増える）のではないか。上流3ダムは個別に対策が必要であると考えられる。		④ 上流3ダムは堆砂傾向であるが、7ダムの合計で見ると改善傾向である。
	⑤	p. 7左下の「河積」は断面積ということで、大きな変化は無いということで良いか。		⑤ 断面積である。平成17年出水で顕著な堆積が確認された箇所を対象に、平成23年を基準に断面積の変化を見ており、経年的に大きな変化は見られない。
	⑥	通砂の影響で河積変化率の「普通状態」が維持されているのか。		⑥ ダム通砂による影響も考えられるが、掘削などの管理行為による影響も考えられる。
	⑦	昨年はダム通砂をしたが河口部で浚渫しなくてよかったということは、結果として良かった。 平成17年出水以降、アジ釣りができなくなったが、アジやタイ・イシダイは今年少しずつ釣れるようになり、改善してきていると思った。		⑦ 今後の評価の参考にさせて頂く。
	⑧	シカの食害に関して対策はしているがたちごっことなっている。ウサギによる食害もたまにある。伐採は民間が多く、植林は森林組合がほぼ全てを担っている。裸地面積について、諸塚は横ばいだが、平成17年以前は大きな台風が無かったのも、それと比較すると悪い。 当時はほとんどが間伐で、主伐はあまり無かった。 →平成17年以前はあまり機械化していなかった。		⑧ 今後の評価の参考にさせて頂く。
(2) 土石流等の土砂災害の発生状況		事務局案で了承する。		
(3) 自然景観	⑨	大規模崩壊跡地の裸地面積について、野ノ尾地区の下流も崩壊が進んでいるが、面積に入っているか。ただし、景観的にはあまり変わらないと思われる。		⑨ 現時点では含めていない。
	⑩	p. 26の写真は野ノ尾地区ではなく島戸地区ではないか。		⑩ 野ノ尾地区で合っている。
	⑪	ヒアリング結果（森林景観の状況）について、森林組合と森林管理署で違いが大きいのはなぜか。		⑪ 管理している範囲（国有林）では良い状態と考え、回答した。

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【山地班】 議事要旨				
(4) 生物生息生育環境 の変化		事務局案で了承する。		
(5) 産業基盤の状況	⑫	漂着物量は、令和6年度は仮置き分を計上しているため処理量が多いのではないか。	⑫	現時点では処理が追い付いていない状況である。
	⑬	土砂災害の発生状況が良い状態であるのに、漂着物処理量は悪い状態ではつつまが合わないのではないか。タイミングの違いか。 →前年度の漂着物を溜めていたため違いがでていないのではないか。上流の塵芥・流木はダムで引き揚げているため、海岸漂着物は大内原ダムより下流から発生した流木との感覚である。	⑬	今後の評価の参考にさせて頂く。
	⑭	流木処理実績（ダム）が減っているのに対し、河口の漂着物量は悪化している。感覚との乖離はあると思うが、流木が多いイメージは無い。	⑭	現時点では原因は分からない。今後の評価の参考にさせて頂く。
(6) 渇水緩和機能の状況		事務局案で了承する。		
(7) 洪水緩和機能の状況		事務局案で了承する。		
(8) 砂防施設容量		事務局案で了承する。		
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【ダム班】 議事要旨				
項 目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(9) 貯水池末端部 治水安全度	①	西郷ダム付近では土砂や砂利等の堆積状況が確認でき、各ダム湖には土砂がたまっている状況が確認できるため、評価としては悪い状態（c）ではないのではないか。	①	頂いた意見を基に一部評価を修正させていただく。（状態評価:b→c）
(10) 利水容量	②	事務局案で了承する	②	
(11) 取水機能の維持	③	事務局案で了承する	③	
(12) 放流設備機能 の維持	⑤	流木処理は管理上必ず実施する必要があるのか？ダム湖の流木はコイやフナ等の産卵場として利用されるので、悪い影響ばかりではない。	⑤	今後の評価の参考にさせて頂く。
(13) 利水設備機能 の維持				
(14) 生物生息生育環境 の変化	⑥	県内の漁獲量は利用者が減りつつあるため減少し、県外からの利用者（川釣りなど）が増えている印象である。	⑥	今後の評価の参考にさせて頂く。
(15) 生物生息空間の 連続性		事務局案で了承する。		
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【河道班】 議事要旨				
項 目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(16) 付着藻類の変化	①	年度ごとに比較をするためには調査の実施時期を合わせるべきだと思う。	①	出水後に実施する調査であるため、実施時期にばらつきが生じている。
(17) 河川景観の変化	②	耳川の支川(坪谷川)が調査対象箇所に含まれているが、本川の大内原ダムより下流で土地が侵食されていることから、そういった箇所を調査地点に含めるように見直すべきだと思う。 にごりの発生も悪化しているため、今回のモニタリング結果で河川景観全体を代表できるものではないと思う。 掘削はされているが、堆積土砂が除去しきれていない部分もあるため、水害で被害が生じているところは除去してほしい。	②	今後の評価の参考にさせて頂く。
(18) 生物生息生育環境の変化	③	河道形状について改善傾向と評価されているが、淵が浅くなり、少なくなっている印象がある（埋まっていつている）	③	頂いた意見を基に「河道形状」の評価を修正させていただく。(方向性評価: A→B)
(19) 瀬・淵の状況	④	「(18) 生物生息生育環境の変化」の「河道形状」と同じ意見である。	④	頂いた意見を基に評価を修正させていただく。(方向性評価:A→B)
(20) 橋脚の安定性		事務局案で了承する。		
(21) 護岸基礎部の安定性		事務局案で了承する。		
(22) 取水の安定性	⑤	水質について、令和6年に濁度が高い値を示しているのは、雨が降った後に調査したためである。 河道縦横断について、令和4年の出水後は河床が変動してポンプアップしていない。	⑤	頂いた意見を基に「河道縦横断」の評価を修正させていただく。(状態評価: c→b)
(23) 治水安全度	⑥	事務局案で了承する。 但書きとして、「場所によっては悪くなっているところがある」旨を記載していただきたい。	⑥	今後の評価の参考にさせて頂く。
(24) 氾濫発生時の被害状況	⑦	被災家屋棟数が令和6年（台風10号）と同規模出水の平成19年と比較して少なくなっているが、住民が転出したことが要因であると思う。浸水エリア自体は変わっていない。	⑦	頂いた意見を基に評価を修正させていただく。(状態評価: a→b)
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【河口海岸班】 議事要旨				
項 目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(25) 生物生息生育環境 の変化	①	鮎とウナギは不漁、鮎は放流しても漁獲量が少ない。ヒラメも同様であり、土砂が底に溜まり固くなることで、ヒラメが育ちにくい環境となっていると考えられる。	①	今後の評価の参考にさせて頂く。
	②	ヤツマタモク場の繁茂しているところで写真を撮影しており、繁茂している箇所の際は、繁茂していない箇所も見受けられる。もう少し、広角で撮影すべきだと考えられる。	②	今後の評価の参考にさせて頂く。
(26) 防災機能の維持		事務局案で了承する。		
(27) 親水空間の確保		事務局案で了承する。		
(28) 港湾施設の 機能維持	③	港内の一部では、水深が1m程度と浅くなっている箇所も見受けられる	③	今後の評価の参考にさせて頂く。
(29) 治水安全度		事務局案で了承する。		
(30) 船舶の航行 (操業上)の安全確保	④	美々津浜と比較し、幸脇地区の方が、流木の漂流物が多いため、美々津浜の写真だけでなく、幸脇地区の写真も載せるべきである。	④	今後の評価の参考にさせて頂く。
	⑤	海域の水深が浅くなっているので、調査方法・対策を検討して欲しい。 沖で、3～4m程度の水深しかないため、うねりを伴った1mくらいの波がある場合は、船が出せない。	⑤	今後の評価の参考にさせて頂く。
(31) 海岸環境の変化		事務局案で了承する。		
(32) 漁業の操業環境		事務局案で了承する。		
(33) 氾濫発生時の 被害状況		事務局案で了承する。		
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

3. WGでの意見を踏まえた「問題・課題評価シート」及び「耳川通信簿」

WG後の評価結果

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の 問題・課題	モニタリング項目	説明 頁	主従 関係	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価			総合 評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価 ※2	
						方向性	状態				方向性	状態		
山地 領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	11.裸地面積	3	主	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△		事務局案で了承する。 崩壊地面積の算出方法に疑問がある。椎葉は伐採減。美郷は伐採増。	B	b	△	
		12.ダム堆砂	5	主	至近3年間の変動幅の範囲内を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	A	a			事務局案で了承する。 下流側は良くなっているが、上椎葉ダムでは悪くなっている（ダム堆砂量が増えている）のではないかと。上流3ダムは個別に対策が必要である。	A	a		
		5.河道縦横断	7	主	状態は基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	－	b			事務局案で了承する。	－	b		
		25.土砂除去量 （河道・河口海岸）	14	主	状態は基準年の変動幅を下回っていることから「良い状態」と評価される。	－	a			事務局案で了承する。 通砂をしたが浸漕を行わなくてよかった事は良かったと思う。	－	a		
		30.ヒアリング	15		森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c			事務局案で了承する。 平成17年以前は大きな台風が無かったので、それと比較すると悪いとの意見である。当時はほとんどが間伐で、主伐はあまり無かった。	C	c		
	(2)土石流等の土砂災害の発生状況	14.土石流危険渓流整備 （土砂災害発生状況）	18		（参考：令和3年度～令和5年度） 土砂災害発生件数が至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	B	a	○	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。	事務局案で了承する。	B	a	○	
		15.保安施設整備 （土砂災害発生状況）	18											
	(3)自然景観	17.写真観測（自然景観）	21		大規模崩壊跡地の方向性は、至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、森林管理者へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c	△		事務局案で了承する。 野ノ尾地区の下流も崩壊が進んでいるが、集計に入っていない。ただし、景観的にはあまり変わらないと思われる。	A	c	△	
		17.写真観測（親水景観）	21		前年度と比較して、一部地点を除き大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートの全体の平均は2.8点となり、総合的に「良い状態」と評価される。	B	a			事務局案で了承する。	B	a		
		30.ヒアリング	28		ヒアリングは評価対象外（点数化しない）	－	－			事務局案で了承する。森林管理署の管理している範囲では「良い状態」で、森林組合は、H17以前は良かったという前提で考えている。	－	－		
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		生物生息生育環境の方向性は、全ての森林管理者から「維持傾向」の回答を得たことから、「維持傾向」と評価される。状態は、一部の森林管理者から「悪い状態」と回答を得たことから、「悪い状態」と評価される。	B	c	×	【評価コメント】 令和6年度は、ヒアリング（崩壊地からの土砂流出、産業基盤の状況）、漂着物量（河道・河口海岸）に関して「悪化傾向」、また、ヒアリング（崩壊地からの土砂流出、自然景観、生物生息環境の変化、漂着物量（河道・河口海岸）、産業基盤の状況）に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。	事務局案で了承する。シカ、ウサギによる食害が見られる。	B	c	×	
	(5)産業基盤の状況	11.裸地面積	34		至近3年間の変動幅を下回ることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△		事務局案で了承する。	B	b	△	
		27.流木処理実績	35		状態は、基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	－	a			事務局案で了承する。	－	a		
		26.漂着物量 （河道・河口海岸）	36		至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「悪化傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	C	c			事務局案で了承する。土砂災害の発生状況が良い状態なのに流木の状態が悪いのはつじつまが合わないのではないか。流木処理実績とも異なる。イメージの違いはあるかもしれないが、森林管理者としては流木が多いイメージはない。	C	c		
		16.路網密度	37		（参考：令和5年度評価） 耳川計画区で微増していることから「改善傾向」と評価される。『第八次宮崎県森林・林業長期計画』令和7年目標値（39.7m/ha）を上回っていることから「良い状態」と評価される。	A	a			事務局案で了承する。	A	a		
		30.ヒアリング	38		山林及び作業道の管理について、森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c			事務局案で了承する。	C	c		
	(6)渇水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「改善傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	A	b	○		事務局案で了承する。	A	b	○	
	(7)洪水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「改善傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	A	b	○		事務局案で了承する。	A	b	○	
	(8)砂防施設容量	23.写真観測（砂防施設）	50		前年度と比較すると、余裕率が若干減少していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、水通し天端の上まで堆積していないことから「良い状態」と評価される。	C	a	△		事務局案で了承する。	C	a	△	

着色凡例	
	：治水面（防災面）
	：利水面（水利用面）
	：環境面

個別評価凡例	
【方向性】	A：改善傾向，B：維持傾向，C：悪化傾向
【状態】	a：良い状態，b：普通状態，c：悪い状態

評価凡例	
○	：問題なく良いレベル
△	：普通のレベル
×	：問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

その他意見：H17年以降釣れなくなっていたアジ、イシダイ等が釣れるようになった。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価			総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態				方向性	状態	
ダム領域	(9)貯水池末端部(貯水池への河川流入部)治水安全度	12.ダム堆砂	2		ダム貯水池末端部(貯水池への河川流入部)の河床高は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	C	b	×	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 ダム領域評価:『△』 【評価コメント】 令和6年度は、ダム堆砂(貯水池末端部)、水質、漁獲量(内水面)に関して「悪化傾向」、また、ダム堆砂(利水容量)、水質、ヒアリング(漁獲量(内水面)、河床材料)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。	背水の影響によらず、各ダム末端や河岸に土砂がたまった状態がある。 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(状態評価:b→c)	C	c	×
	(10)利水容量	12.ダム堆砂	13		利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「悪い状態」と評価される。	B	c	×		事務局案で了承する。	B	c	×
	(11)取水機能の維持	12.ダム堆砂	20		取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a	○		事務局案で了承する。	B	a	○
	(12)放流設備機能の維持	27.流木処理実績	26		基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○		事務局案で了承する。	-	a	○
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		上椎葉ダム、岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	-	-			事務局案で了承する。	-	-	
	(13)利水設備機能の維持	27.流木処理実績	26		基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○		事務局案で了承する。 ダム湖の流木は悪い影響ばかりではなく、コイ・フナなどの産卵場として利用される(7月頃)。	-	a	○
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		上椎葉ダム、岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	-	-			事務局案で了承する。	-	-	
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		椎原橋において至近3年間を上回る濁水長期化日数を示していることから「悪化傾向」と評価される。出水時の濁水長期化の目安の期間(2〜3週間:10度以下)の範囲を上回っていることから、濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×		事務局案で了承する。 発電取水以外の場所でも、濁水の影響が確認できる。	C	c	×
		6.魚類	40		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b			事務局案で了承する。 アユやカワムツは放流による影響が大きい。	B	b	
		7.底生動物	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-			事務局案で了承する。	-	-	
		8.付着藻類	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-			事務局案で了承する。	-	-	
		30.ヒアリング	43		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-			事務局案で了承する。	-	-	
		6.漁獲量(内水面)	44		漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁獲量の状態は、漁協ヒアリングの結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	C	c			事務局案で了承する。 川釣りする人が少ない(県外の人が釣りに来る)放流したアユは濁水の影響がある。	C	c	
	(15)生物生息空間の連続性	2.河床材料	47		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリング結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	B	c	×		事務局案で了承する。	B	c	×
		6.魚類	49		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b			事務局案で了承する。 養殖の魚類は弱い。	B	b	
		7.底生動物	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-			事務局案で了承する。	-	-	

着色凡例

: 治水面（防災面）

: 利水面（水利用面）

: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A：改善傾向， B：維持傾向， C：悪化傾向

【状 態】 a：良い状態， b：普通状態， c：悪い状態

評価凡例

○：問題なく良いレベル

△：普通のレベル

×：問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の 問題・課題	モニタリング項目	説明 頁	主従 関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合 評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価 ※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河 道 領 域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2		付着藻類(出水時)は、細胞数の増加はほとんど見られなかったが、出現種数及びクロロフィルaは至近3年間の調査結果の変動と同程度であることから、「維持傾向」と評価される。付着藻類に関する漁協ヒアリングの結果、半数以上の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。 同じ月の調査が良いのでは？出水の後なのでバラつきが出る。	B	c	×
		30.ヒアリング	5		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	－	－		事務局案で了承する。	－	－	
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	7		自然景観は前年度と比較して、特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。 (坪谷川)支流は対象とならないのでは？築堤がない場所は、昨年と比べて悪化している。 (土砂が堆積している、民地が浸食)ポイントを変えた方がよい。	B	b	△
		17.写真観測(親水景観)	7		親水景観は、上椎葉上流親水箇所等で台風などにより埋塞し景観の変化が見られるが、その他の地点では特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a		B	a		
	(18)生物生態生育環境の変化	1.水質	40		出水時の流量規模別濁度は、椎原橋で至近3年間(令和2、4、5年度(令和3年度は調査未実施))の最大の傾き(流量に対する濁度の比率)を上回った。また、出水時の濁水長期化は、荒谷橋において至近3年間を上回る濁水長期化日数を示していることから水質は「悪化傾向」と評価される。水質の濁水長期化の状態は目安の期間(2～3週間:10度以下)の範囲を上回っていることから「悪い状態」と評価される。	C	c	△	事務局案で了承する。	C	c	△
		2.河床材料	47		河床材料は、各河川区間ともに大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c	
		4.河道形状	49		河道形状は、至近3年間の変動幅より多く「改善傾向」と評価される。状態は、瀬と淵の合計数から「普通状態」と評価される。	A	b		瀬が速くなっている。少なくなってきた印象がある。 (埋まっている)(深さの定義がない)通砂が続くと改善されるのか？ →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(方向性評価:A→B)	B	b	
		6.魚類	53		アユやカマツカの個体数については、地点によって違いはあるものの至近3年間(2021年度～2023年度(令和3年度～令和5年度))の変動幅の範囲内の地点が多いこと、アユの産卵床も至近3年間(2021年度～2023年度(令和3年度～令和5年度))の変動幅の範囲内であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b		事務局案で了承する。	B	b	
		7.底生動物	60		地点により、種数及び個体数の変動や造網型指数の減少傾向が確認されたものの、全体でみると至近3年間と概ね同程度かやや増加傾向であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	－		事務局案で了承する。	B	－	
		8.付着藻類	62		2024年度(令和6年度)は、通砂後の濁水の影響により細胞数はほとんど増加していないが、出現種数及びクロロフィルaは至近3年間の調査結果と同程度まで増殖していることから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、半数以上の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c	
		9.河岸植生	63		ツルヨシ群落が大きく減少し、自然裸地が増加していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C	c	
		29.水質、底生動物	65		方向性は、至近3年間(令和2年度～令和4年度)の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、平均点が3.83点であることから「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。	B	a	
		30.ヒアリング	67		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	－	－		事務局案で了承する。			
		6.漁獲量(内水面)	68		方向性は、至近3年間(令和3年度～令和5年度)と比較すると「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C	c	
	(19)瀬・淵の状況	4.河道形状	71		瀬・淵の数は、至近3年間の変動幅変動幅より多く、「改善傾向」と評価される。基準値(平成19年度～令和3年度の瀬と淵の合計箇所数の平均値)の範囲内であることから「普通状態」と評価される。	A	b	○	(18)4.と同じ評価 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(方向性評価:A→B)	B	b	△
	(20)橋脚の安定性	5.河道縦横断	73		状態は、橋脚部が洗掘されている東郷橋及び八重原橋では洗掘対策が講じられており、安全性に関して大きな問題はないと考えられることから「普通状態」と評価される。	－	b	△	事務局案で了承する。	－	b	△
		18.写真観測 (河川状況、構造物基礎)	73		橋脚基礎の状況に大きな変化は見らず、安全性に関して大きな問題はない。	－	－		事務局案で了承する。	－	－	
	(21)護岸基礎部の安定性	5.河道縦横断	78		横断測量及び写真の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	－	b	△	事務局案で了承する。	－	b	△
		18.写真観測 (河川状況、構造物基礎)	78		護岸基礎部の状況に大きな変化は見らず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	－	－		事務局案で了承する。	－	－	
	(22)取水の安定性	1.水質	84		水質の方向性は水道原水のpHは至近3年間の変動幅の範囲内、濁度は至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、設定した基準値の範囲内いあることから「良い状態」と評価される。濁度の状態は、設定した基準値を上回ることから「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。 雨の後の調査は濁度が高くなる	B	c	△
		5.河道縦横断	85	主	令和6年度は、基準年(平成23年度)と比較すると、「普通状態」と評価される。	－	c		R4.10月の台風以降はポンプアップしていない。 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(状態評価:c→b)	－	b	
		24.写真観測 (取水口堆砂状況)	85		取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	－	－		事務局案で了承する。	－	－	
	(23)治水安全度	5.河道縦横断	88		横断測量及び写真観測の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	－	b	△	事務局案で了承する。	－	b	△
		18.写真観測 (河川状況、構造物基礎)	95		河川、構造物基礎等の状況は、令和5年度と比較して大きな変化は見られない。	－	－		調査地点としては、大きな変化が見られなくても悪い場所もある。	－	－	
	(24)氾濫発生時の被害状況	31.水害統計資料	112		浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和6年度(台風10号)は、過去に12戸の浸水被害が発生した平成19年の流量規模より大規模の流入量であるが、浸水被害戸数が減少しているため「良い状態」と評価される。	B	a	○	水害が少ないのは、転出したからではないか。 いつでも危険な状態での認識である。水没エリアで評価した方が良いのでは。 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(状態評価:a→b)	B	b	△
		20.写真観測 (洪水時流下状況)	113		台風10号洪水時に一部流木の漂着が確認された。	－	－		事務局案で了承する。家屋だけでなく、農地も被害を受けている。	－	－	

着色凡例	
	:治水面(防災面)
	:利水面(水利用面)
	:環境面

個別評価凡例	
【方向性】	A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】	a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例	
○:	問題なく良いレベル
△:	普通のレベル
×	問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

その他意見：全体の評価としては違うのではないかな。濁りもあるし堆積土砂が除去しきれていないのではないかな。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の 問題・課題	モニタリング項目	主 頁	説明 系統	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価						
					評価結果の概要	個別評価		総合 評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価 ※2		
						方向性	状態			方向性	状態			
河口・ 海岸 領域	(25) 生物生態生育環境の 変化	1. 水質（海域：出水時）	3		概ね至近3年間の変動幅を上回ったことから「悪化傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	C	c	△	事務局案で了承する。	C	c	△		
		3. 底質（海域：出水時）	7		至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。化学分析結果が全項目において汚れの目安以下であることから「良い状態」と評価される。	B	a			事務局案で了承する。	B			a
		6. 漁獲量（海域）	9		至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c			事務局案で了承する。 鮎とウナギは不漁。鮎は放流しても漁獲量が少ない。 ヒラメも同様であり、土砂が底に溜まり固くなることで、 ヒラメが育ちにくい環境となっていると考えられる。	B			c
		7. 漁獲量（内水面）	9		至近3年間の変動幅を下回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、一部の漁協から「悪い状態」の回答を得た。（参考：方向性は令和4年度評価）	C	c			事務局案で了承する。	C			c
		7. 底生動物（海域：出水時）	11		概ね至近3年間の調査結果の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。	B	－			事務局案で了承する。	B			－
		10. 藻場（海域）	13		至近3年間と比較して分布・密生範囲が拡大したことから、「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b			事務局案で了承する。 ヤツマタモク場の繁殖しているところで写真を撮影しており、 繁殖している箇所の際では、繁殖してない箇所も見受けられる。 もう少し、広角で撮影するべきだと考えられる。	A			b
	(26) 防災機能の維持	28. 航空写真（汀線比較）	21		至近3年間ならびに基準年と比較すると増加していることから「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。（参考：令和2年度評価）	A	a	○	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。	事務局案で了承する。	A	a	○	
	(27) 親水空間の確保	17. 写真観測（景観・親水）	23		令和5年度と比較して大きな変化は見られない。	－	－	○		事務局案で了承する。	－	－	○	
		28. 航空写真（汀線比較）	25		至近3年間及び基準年と比較すると増加していることから、「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。（参考：令和2年度評価）	A	a			事務局案で了承する。	A	a		
	(28) 港湾施設の機能維持	25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	28		状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	－	a	○	河口・海岸領域評価：『△』 【評価コメント】 令和6年度は、水質(海域)、漁獲量(内水面)、ヒアリング(漁獲量・漁業の操業環境)、漂着物量(河道・河口海岸)に関して「悪化傾向」、また水質(海域)、河道縦横断、ヒアリング(漂着物量(河道・河口海岸)、船舶の航行(操業上)の安全確保、漁獲量(内水面、海域)、漁業の操業環境)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。	事務局案で了承する。 港内の一部では、水深が1m程度と浅くなっている箇所も見受けられる。	－	a	○	
	(29) 治水安全度	5. 河道縦横断	31		基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	－	a	○		事務局案で了承する。	－	a	○	
	(30) 船舶の航行(操業上)の 安全確保	5. 河道縦横断	36		確保率は96%であり、100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	－	c	×		事務局案で了承する。	－	c	×	
		25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	37		状態は、基準年の変動幅を下回っていることから「良い状態」と評価される。	－	a			事務局案で了承する。 海域の水深が浅くなっているので、調査方法・対策を検討して欲しい。 沖で、3～4m程度の水深しかないため、うねりを伴った1mくらいの波がある場合は、船が出せない。	－	a		
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	38		台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。 美々津浜と比較し、幸脇地区の方が、流木の漂物流が多いため、美々津浜の写真だけでなく、幸脇地区の写真も載せるべきである。	－	－		
		21. 写真観測（海域漂流状況）	39		台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	39		台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	40		至近3年間の変動幅の変動幅を上回っているため「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」の回答を得た。	C	c			事務局案で了承する。	C	c		
	(31) 海岸環境の変化	30. ヒアリング	41		日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答であった。	C	c	×		事務局案で了承する。	C	c	×	
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	44		台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
	(32) 漁業の操業環境	26. 漂着物量（河道・河口海岸）	48		至近3年間の変動幅を上回っているため「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	C	c	×		事務局案で了承する。	C	c	×	
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	49		台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	50		台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		6. 漁獲量（海域）	51		至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c			事務局案で了承する。	B	c		
		30. ヒアリング	52		漁協ヒアリングの結果「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答を得た。	C	c			事務局案で了承する。	C	c		
	(33) 氾濫発生時の被害状況	31. 水害統計資料	54		浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和6年度（台風10号）は、過去に12戸の浸水被害が発生した平成19年の流量規模より大規模の流入量であるが、浸水被害戸数が減少しているため「良い状態」と評価される。	B	a	○		事務局案で了承する。	B	a	○	
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	55		台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		

着色凡例	
	：治水面（防災面）
	：利水面（水利用面）
	：環境面

個別評価凡例	
【方向性】 A：改善傾向、B：維持傾向、C：悪化傾向	
【状態】 a：良い状態、b：普通状態、c：悪い状態	

評価凡例	
○：問題なく良いレベル	
△：普通のレベル	
×：問題があり悪いレベル	

- ※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
- ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

「耳川通信簿」耳川流域全体（令和6年度）

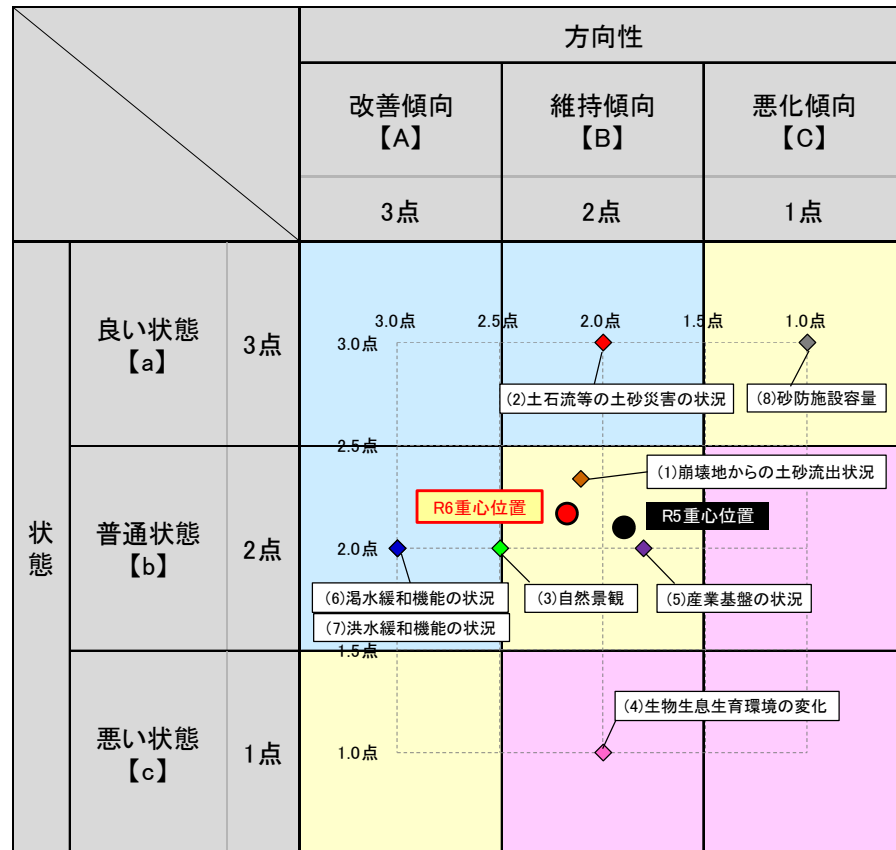
資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	R6		R5		R4		事務局評価	領域の評価				評価改善 委員会の 評価
			評価	得点	評価	得点	評価	得点						
資料 ④-1	山地 領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	△	1	△	1	×	0	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 山地領域の得点率は63％であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「良いレベル○」と評価される。令和4年度及び令和5年度を上回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(4)生物生息生育環境の変化の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	山地領域	R6	R5	R4	○
		(2)土石流等の土砂災害の発生状況	○	2	○	2	△	1		問題・課題の数	8	8	8	
		(3)自然景観	△	1	△	1	△	1		配点	16	16	16	
		(4)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	△	1		得点	10	8	7	
		(5)産業基盤の状況	△	1	△	1	△	1		得点率	63%	50%	44%	
		(6)渇水緩和機能の状況	○	2	△	1	×	0		得点率の評価	○	△	△	
		(7)洪水緩和機能の状況	○	2	△	1	△	1						
		(8)砂防施設容量	△	1	△	1	○	2						
資料 ④-2	ダム 領域	(9)貯水池末端部治水安全度	×	0	×	0	×	0	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ダム領域の得点率は43％であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和4年度、令和5年度と同じ得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(9)貯水池末端部治水安全度（10）利水容量及び（14）生物生息生育環境の変化、（15）生物生息空間の連続性の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	ダム領域	R6	R5	R4	△
		(10)利水容量	×	0	×	0	△	1		問題・課題の数	7	7	7	
		(11)取水機能の維持	○	2	○	2	△	1		配点	14	14	14	
		(12)放流設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点	6	6	6	
		(13)利水設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点率	43%	43%	43%	
		(14)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	△	△	
		(15)生物生息空間の連続性	×	0	×	0	×	0						
資料 ④-3	河道 領域	(16)付着藻類の変化	×	0	×	0	×	0	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 河道領域の得点率は44％であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和5年度とと同じ得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、（16）付着藻類の変化が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	河道領域	R6	R5	R4	△
		(17)河川景観の変化	△	1	△	1	△	1		問題・課題の数	9	9	9	
		(18)生物生息生育環境の変化	△	1	×	0	×	0		配点	18	18	18	
		(19)瀬・淵の状況	△	1	○	2	×	0		得点	8	9	3	
		(20)橋脚の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率	44%	50%	17%	
		(21)護岸基礎部の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率の評価	△	△	×	
		(22)取水の安定性	△	1	△	1	×	0						
		(23)治水安全度	△	1	△	1	×	0						
		(24)氾濫発生時の被害状況	△	1	○	2	×	0						
資料 ④-4	河口・ 海岸 領域	(25)生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	△	1	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 河道領域の得点率は61％であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「良いレベル○」と評価される。令和4年度及び令和5年度を上回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、（30）船舶の航行（操業上）の安全確保、（31）海岸環境の変化、（32）漁業の操業環境が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	河口・海岸領域	R6	R5	R4	○
		(26)防災機能の維持	○	2	○	2	○	2		問題・課題の数	9	9	9	
		(27)親水空間の確保	○	2	○	2	○	2		配点	18	18	18	
		(28)港湾施設の機能維持	○	2	×	0	×	0		得点	11	9	7	
		(29)治水安全度	○	2	○	2	○	2		得点率	61%	50%	39%	
		(30)船舶の航行（操業上）の安全確保	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	○	△	×	
		(31)海岸環境の変化	×	0	×	0	×	0						
		(32)漁業の操業環境	×	0	×	0	×	0						
		(33)氾濫発生時の被害状況	○	2	○	2	×	0						
総合評価			【耳川水系目標】耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和6年度は、耳川水系全体としての得点率は令和4年度及び令和5年度を上回っているが、ダム領域と河道領域が普通レベルであることから総合的に普通のレベル「△」と評価される。 各領域において悪い評価の問題・課題については、今後もモニタリングを継続しながら、改善に向けて各種行動計画を推進していく必要がある。							耳川水系	R6	R5	R4	△
			問題・課題の数				33	33	33					
			配点				66	66	66					
			得点				35	32	23					
			得点率				53%	48%	35%					
			得点率の評価				△	△	×					

着色凡例

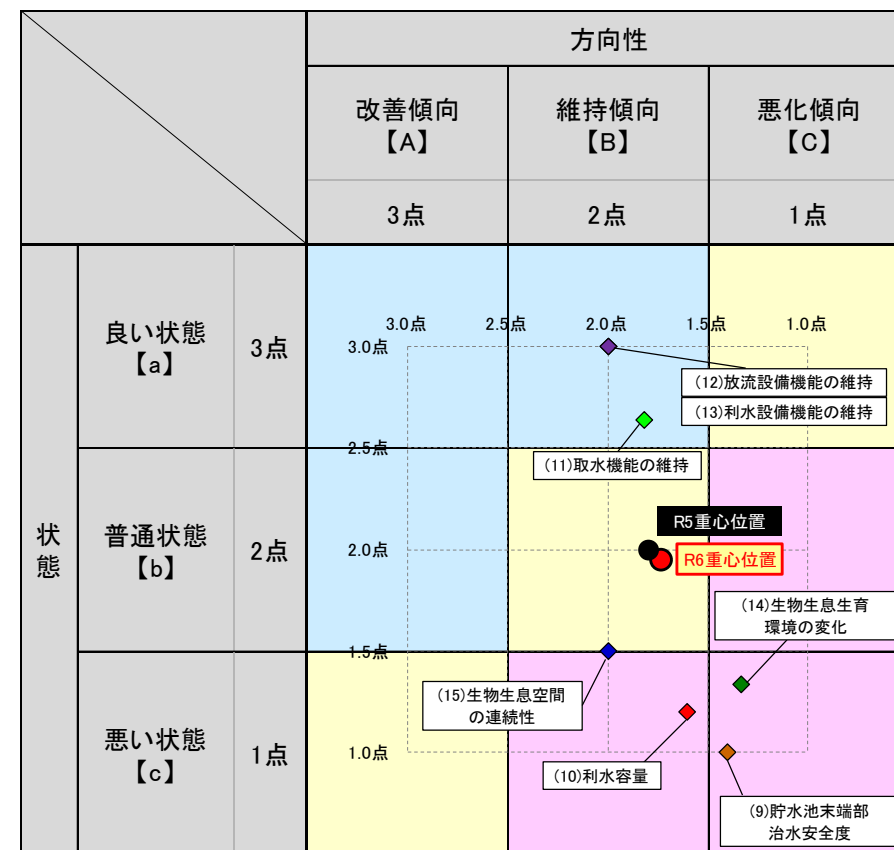
	：治水面（防災面）
	：利水面（水利用面）
	：環境面

課題評価の凡例
○：問題なく良いレベル
△：普通のレベル
×：問題があり悪いレベル

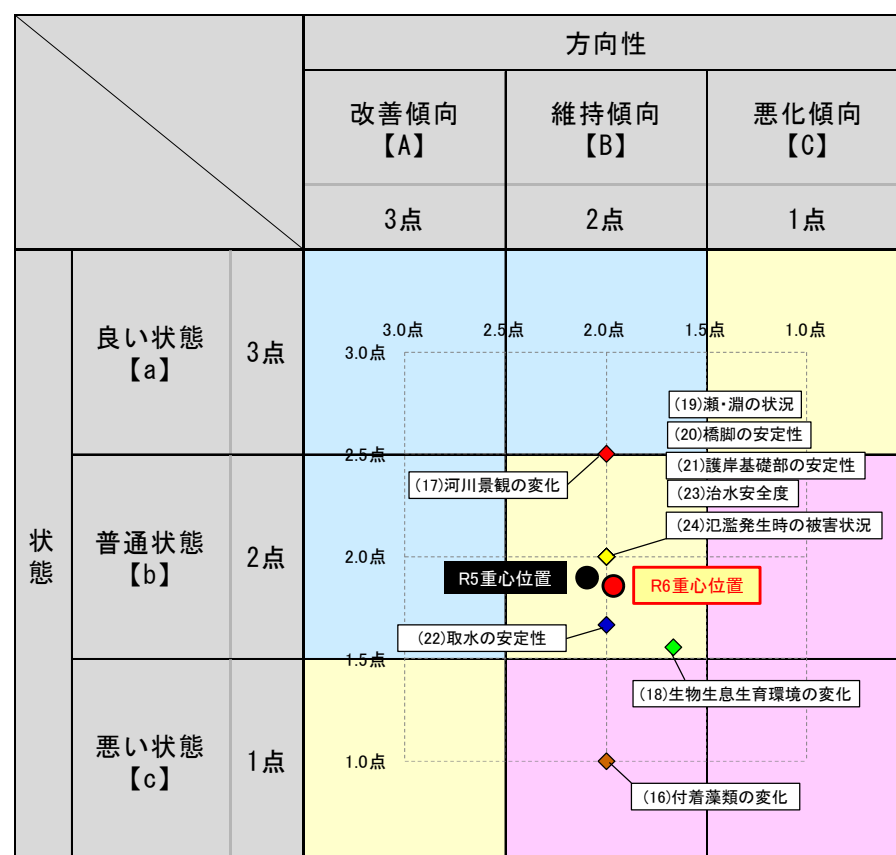
山地領域の総合評価（令和6年度）



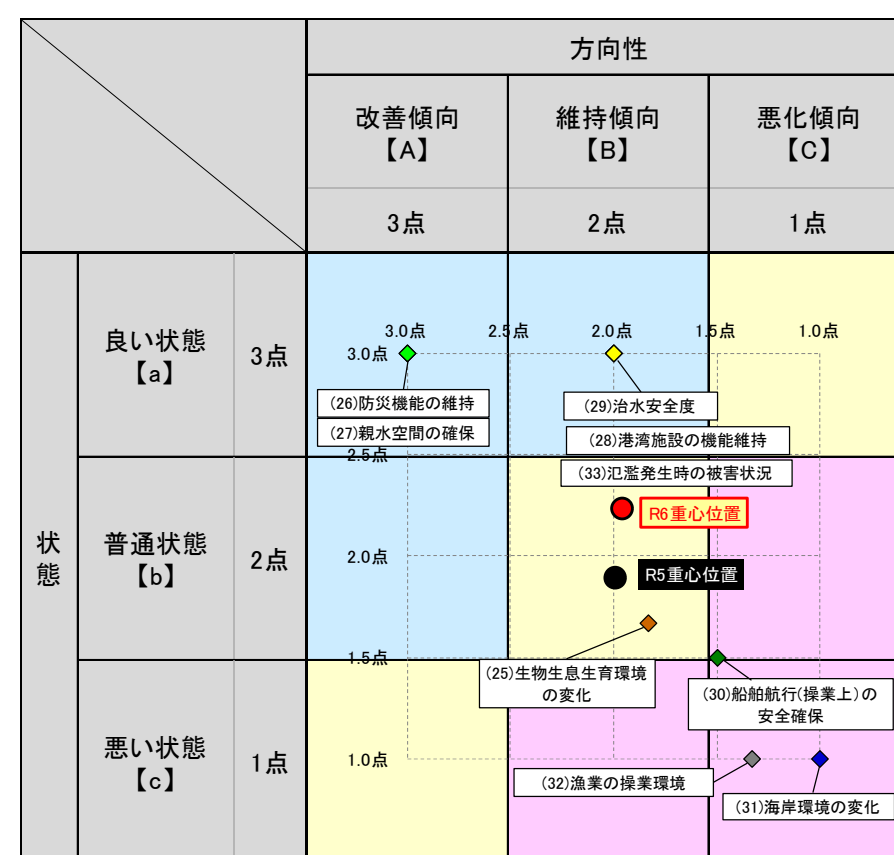
ダム領域の総合評価（令和6年度）



河道領域の総合評価（令和6年度）



河口・海岸領域の総合評価（令和6年度）



4. 開催状況（第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 令和7年3月18日 於：美郷町西郷ニューホープセンター）

＜山地領域＞



＜河道領域＞



＜ダム領域＞



＜河口海岸領域＞



ワーキンググループ アンケート結果

ワーキンググループでは、現地で参加した委員を対象としてアンケートを実施した。

1. アンケート用紙

耳川水系総合土砂管理 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ アンケート

耳川を良い川とするためのワーキンググループの活性化のため、アンケートにご協力をお願いします。

<ワーキングについて>

各質問について、該当項目に○印をつけてください。

		①	②	③	④
Q1	説明資料内容	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった
Q2	説明の仕方	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった
Q3	ワーキンググループの進め方	とても良かった	ふつう	悪かった	非常に悪かった
Q4	評価方法について	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった

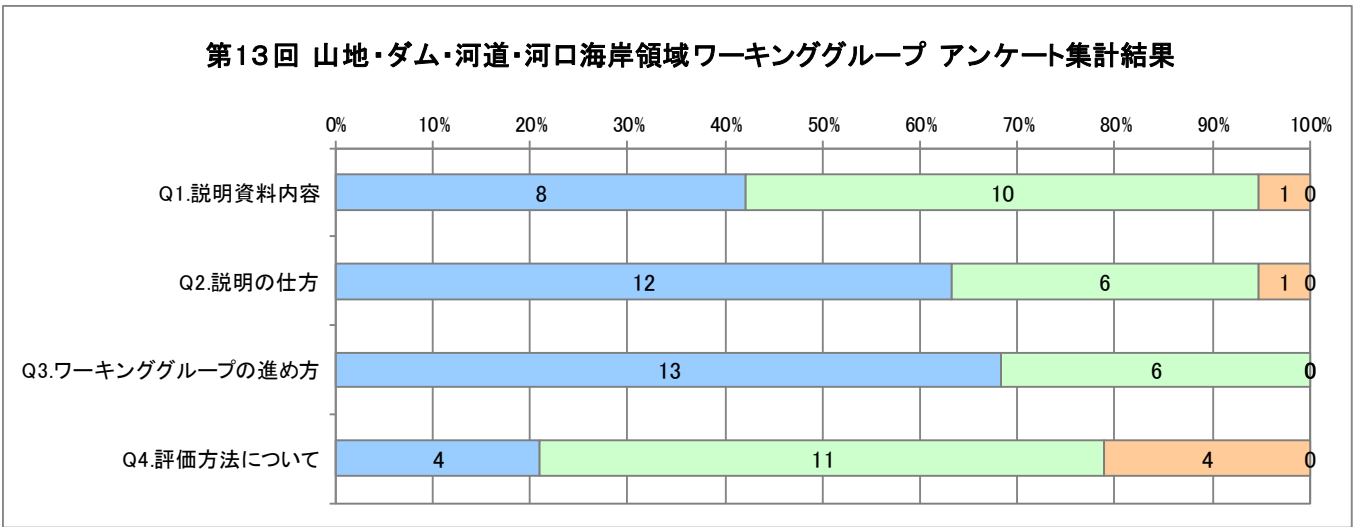
会の進め方について改善すべき事項や内容等についてアドバイスをお願いします。

(会場の設備に関することなど、なんでも構いません。)

<耳川について>

グループ討議で言いそびれたこと、事務局に伝えておきたいことなどがあればお願いします。

2. アンケート結果①：ワーキングについて



凡例 ① わかりやすかった ② ふつう ③ 分かりにくかった ④ 分からなかった

3. アンケート結果②：耳川について

会の進め方について改善すべき事項や内容等についてアドバイスをお願いします。
(会場の設備に関することなど、なんでも構いません。)

- ・会場は広く、グループ討議等もスムーズに行われた。
- ・2グループ同室だと発言内容が聞きづらい。
- ・分かり易く、現在までの状況が細かくてよかった
- ・グラフの量が多く確認しがたい部分もあった
- ・細部の説明が不足している項目があった。
- ・(開催側の) 主観的な要素がほしい、評価結果と自分の主観に相違があった。
- ・指名してもらえると意見が言い易い。
- ・評価だけではなく本音を言える状態がほしい。
- ・年度末は忙しいのでずらしてほしい / 開催を3月から変えてほしい。

グループ討議で言いそびれたこと、事務局に伝えておきたいことなどがあればお願いします。

- ・ヒアリング含め、素材生産事業者も一人でも参加してもらってはどうか。
- ・ヒアリング評価では1つでも「悪い」項目があると評価が「悪い」となるが、総合評価では片方が「悪い」評価であっても、もう片方が「良い」評価であれば「普通」評価になるので評価方法を検討すべきではないか。
- ・水質は最重要だと考えているので、水質汚濁の項目を強化して生活排水についても盛り込むべきである
- ・台風時の通砂によって下流の砂利の状況も変わると思われるが、適切な対処を実施してよりよくしていかなければと感じた。
- ・通砂運用を長期的にみると自然の河川に近づくと聞いたが、現在河川流域の人たちは川離れが著しい
- ・耳川下流域と上流域では評価指標を見直すことも必要ではないか。
- ・通砂は良いが下流については小石・砂等で漁場がなく、小魚も少ない。
- ・長期間ワーキングを開催しているが最終的な目的・目標がわからない。